

**催芽に昨年よりも時間がかかる事例が見られます  
⇒ しっかり浸種・しっかり催芽！**

## 1 浸種時 ～積算温度を確保！～

①浸種水温は10～15℃とし、積算温度は120℃をしっかりと確保しましょう。水温が15℃を超えるとばか苗病が発生しやすくなるため、温度計を設置してこまめに水温を確認しましょう。

品種	積算気温	浸漬日数	
		水温10℃	水温12℃
はえぬき、つや姫、雪若丸 ひとめぼれ、コシヒカリ	120℃	12日間	10日間

②種籾に新鮮な水・酸素を供給するために、3日に1回程度は水を交換しましょう。水交換の際は種籾袋を揺すり、種子袋の内部まで新しい水を浸透させましょう。

③浸種完了の目安は、籾全体に透明感があり、胚が白く透けて見える状態です (図1)。



図1

## 2 催芽時 ～芽切れをしっかりと確認！～

①催芽の目安は水温30～32℃前後で20時間程度ですが、本年はこれより時間がかかる可能性があります。催芽途中で芽切れの状況を確認し、ハト胸が揃っていることを確認してから播種作業に入ります (図2)。

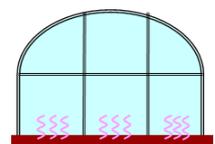


図2

②ただし、芽が長いと播種時に芽の損傷や播きムラが生じます。芽を伸ばしすぎないように、催芽中は芽の動きをこまめに確認しましょう。

## 3 置床前 ～苗床の地温確保！～

置床後の出芽を促すために、置床前にハウスやトンネルを閉めて苗床の地温を高めておきましょう。特に、無加温出芽の場合は、しっかりと地温を確保したうえで苗箱を並べ、適切な被覆資材の使用ときめ細やかな温度管理で、良好な出芽揃いを確保しましょう。



**春作業始動！本田・農道・作業小屋等での農作業事故を防ぎましょう！**